

2013年2月28日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

共催（公財）日本体育協会

（公財）日本オリンピック委員会

「2012年度 ミズノ スポーツメントール賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では、（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

2月28日（木）、グランドプリンスホテル高輪で2012年度選考委員会を開催し、受賞者を以下の通り決定いたしました。

なおこの「ミズノ スポーツメントール賞」の表彰式は、4月18日（木）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】（トロフィー、副賞200万円）

神田 忠彦 氏（水泳 山梨学院大学 水泳部 監督）

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】（トロフィー、副賞各100万円）

村上 恭和 氏（卓球 日本女子ナショナルチーム監督）

山縣 てる子 氏（東京都体育協会 スポーツ少年団認定育成員

（バレーボール、ソフトボール））

【ミズノ スポーツメントール賞】（トロフィー、副賞各50万円）

敷根 裕一 氏（フェンシング ナショナルチーム男子フルーレコーチ）

新海 輝夫 氏（アーチェリー JOCナショナルコーチ）

山根 英紀 氏（トライアスロン JOC専任コーチングディレクター）

高橋 良枝 氏（群馬県スポーツ協会 スポーツプログラマー（バレーボール））

緒方 武人 氏（神奈川県体育協会 スポーツ少年団認定育成員（ソフトボール））

平林 弘光 氏（山梨県体育協会 ジュニアスポーツ指導員（サッカー））

田北 律弥 氏（山口県体育協会 スポーツ少年団認定員（剣道））

桑原 章三郎 氏（熊本県体育協会 指導員（水泳））

詳細は別記の通りです。

記

名 称 : 2012年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に努めた指導者およびその周辺の指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和氏 ((公財)日本オリンピック委員会 会長)
委員 森 正博氏 ((公財)日本体育協会 副会長)
" 監物 永三氏 ((公財)日本体育協会 副会長)
" 泉 正文氏 ((公財)日本体育協会 常務理事)
" 田中英寿氏 ((公財)日本オリンピック委員会 常務理事)
" 上村春樹氏 ((公財)日本オリンピック委員会 常務理事)
" 上治丈太郎氏 ((公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長)

※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者
受賞者及び選考理由 :

神田 忠彦 (かんだ ただひこ) 氏 54歳

(水泳 山梨学院大学 水泳部 監督)

2000年山梨学院大学水泳部創設と同時に水泳部監督として就任した後、わずか10年で日本学生選手権(競泳女子)にて総合優勝した。また、所属選手がオリンピック代表選手としてシドニーオリンピックからロンドンオリンピックまで4大会連続出場した。また、ユニバーシアード・パンパシフィック大会・オリンピック等の数々の国際大会に日本代表コーチとして帯同し、所属の選手のみならず日本代表選手全員の指導にあたり、常に日本競泳界発展のために尽力している。今後も日本競泳強化のために不可欠な逸材である。

【指導した主な選手】

| | | | | |
|-------|------|------------|---------------|------|
| 鈴木聡美 | 2012 | ロンドンオリンピック | 100m平泳ぎ | 銅メダル |
| | | | 200m平泳ぎ | 銀メダル |
| | | | 4×100mメドレーリレー | 銅メダル |
| 加藤和 | 2012 | ロンドンオリンピック | 200m個人メドレー | 14位 |
| 加藤ゆか | 2008 | 北京オリンピック | 100mバタフライ | 23位 |
| 長田友喜子 | 2004 | アテネオリンピック | 200mバタフライ | 13位 |
| 萩原智子 | 2000 | シドニーオリンピック | 200m背泳ぎ | 4位 |
| | | | 200m個人メドレー | 8位 |

村上 恭和 (むらかみ やすかず) 氏 55歳

(卓球 日本女子ナショナルチーム監督)

2008年9月よりナショナルチーム監督を務め、2010年5月に開催された世界選手権モスクワ大会で銅メダル、2012年ロンドンオリンピックでは卓球競技初となる銀メダルを日本女子チームにもたらした。また、所属母体であった日本生命保険相互会社卓球部を、日本リーグ優勝22回を誇る常勝チームへと育て上げた。同チームからは、多数の日本代表選手が輩出されており、その指導力は定評がある。温厚な性格で選手からも慕われる反面、練習及び試合においては、厳しい姿勢を兼ね備えている。

【指導した主な選手】

| | | | | |
|-------|------|------------|--------|------|
| 福原愛 | 2012 | ロンドンオリンピック | 卓球女子団体 | 銀メダル |
| 石川佳純 | 2012 | ロンドンオリンピック | 卓球女子団体 | 銀メダル |
| 平野早矢香 | 2012 | ロンドンオリンピック | 卓球女子団体 | 銀メダル |

山縣 てる子（やまがた てるこ）氏 76歳

（東京都 スポーツ少年団認定育成員（バレーボール、ソフトボール））

同氏は、少年野球チームの結成を皮切りに、青少年のスポーツ育成に奔走する中、昭和58年7月に「豊島区スポーツ少年団」の設立に尽力した。副本部長として先頭に立ち、団員の育成、普及、発展に寄与し、現在21単位団が登録、平成25年に創立30周年を迎える。

スポーツ少年団の振興に力を注ぎ各指導者の模範的存在となっており、東京都スポーツ少年団の女性指導者として活躍した実績もある。

現在の豊島区体育協会においては、35年間、31加盟団体および2支援団体をまとめてきた。

長きにわたりスポーツの振興一筋に情熱を傾け、スポーツ少年団をつくり、家庭婦人のスポーツ参画を先導し、家族・地域の絆を重んじた指導・育成を行ってきた。

さらに豊島区体育協会を事務局長として支えてきた功績は大きく、常にホスピタリティーの心を持ち、今なお前進する姿勢は次世代の指標となっている。

敷根 裕一（しきね ゆういち）氏 47歳

（フェンシング ナショナルチーム男子フルーレコーチ）

これまでの実績と指導力を評価され、2009年4月から男子フルーレナショナルチームのコーチに就任後、練習への真摯な取り組み姿勢と謙虚な指導態度でオレグヘッドコーチとの連携を重視し、2012年ロンドンオリンピックでは男子フルーレチームをオリンピック史上初の団体銀メダル獲得に貢献した。

【指導した主な選手】

| | | | | |
|------|------|------------|----------|------|
| 千田健太 | 2012 | ロンドンオリンピック | 男子フルーレ団体 | 銀メダル |
| 太田雄貴 | 2012 | ロンドンオリンピック | 男子フルーレ団体 | 銀メダル |
| 三宅諒 | 2012 | ロンドンオリンピック | 男子フルーレ団体 | 銀メダル |
| 淡路卓 | 2012 | ロンドンオリンピック | 男子フルーレ団体 | 銀メダル |

新海 輝夫（しんかい てるお）氏 56歳

（アーチェリー JOCナショナルコーチ）

2011年4月より代表監督に就任し、①選手選考方法の変更（選考基準の高レベル化）②ナショナルチームの中から国際大会に出場する選手を選考 ③長期の強化合宿の実施 ④個別トレーニングの導入 ⑤栄養指導などマルチサポートの活用 ⑥個別コーチの合宿招聘等の強化策を実施し、その結果、2012年ロンドンオリンピックにおいて男子個人銀メダル、女子団体で銅メダルを獲得した。男子団体においても6位入賞を果たし、出場選手全員が入賞以上の成果を挙げたことは、本連盟始まって以来の快挙である。

【指導した主な選手】

| | | | | |
|-------|------|------------|------|------|
| 古川高晴 | 2012 | ロンドンオリンピック | 男子個人 | 銀メダル |
| 蟹江美貴 | 2012 | ロンドンオリンピック | 女子団体 | 銅メダル |
| 早川漣 | 2012 | ロンドンオリンピック | 女子団体 | 銅メダル |
| 川中香緒里 | 2012 | ロンドンオリンピック | 女子団体 | 銅メダル |

山根 英紀（やまね ひでき）氏 45歳

（トライアスロン JOC専任コーチングディレクター）

トライアスロンのトップレベル選手として活躍後、26歳からトライアスロンコーチとなり、今年で指導歴20年目となる。2000年シドニーオリンピックで2名、さらに2008年北京オリンピックで1名、更に出場基準が厳しくなった2012年ロンドンオリンピックで2名の選手が出場を果たした。2007年よりJTU強化チームマネージャーの役職に就き、事業計画策定や大会派遣、強化合宿などのマネジメント業務も行うなど、指導力とマネジメント力でトライアスロン界を牽引している。

【指導した主な選手】

| | | | |
|------|------|------------|-----------------------|
| 細田雄一 | 2012 | ロンドンオリンピック | 43位 |
| 上田藍 | 2012 | ロンドンオリンピック | 39位/2008 北京オリンピック 17位 |
| 福井英郎 | 2000 | シドニーオリンピック | 36位 |
| 庭田清美 | 2000 | シドニーオリンピック | 14位 |

高橋 良枝（たかはし よしえ）氏 63歳

（群馬県 スポーツプログラマー（バレーボール））

同氏は、長年にわたり、健康スポーツ指導者として、群馬県における「県民総スポーツ」を推進し、県内市町村、企業等からの要請に応じ、幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に親子体操・高齢者体操・軽スポーツ等の指導者として活躍。また介護予防教室（いきいきサロン）の講師としても積極的に取り組み、地域・職域における生涯スポーツの普及・振興に貢献している。

昭和51年から渋川市家庭婦人バレーボールの選手・指導者として活躍し、平成10年に永年出場選手賞、平成22年に功労賞を受賞し現在も指導を続けている。

平成16年から、総合型地域スポーツクラブ育成委員会委員として、県内の生涯スポーツの普及振興・総合型スポーツクラブの育成に尽力している。

地域スポーツ・生涯スポーツの普及振興はもとより、総合型スポーツクラブの育成にも積極的に取り組み、スポーツの普及振興に貢献した功績は非常に大きい。

緒方 武人（おがた たけと）氏 68歳

（神奈川県 スポーツ少年団認定育成員（ソフトボール））

同氏は、梅田スポーツ少年団にて、野球の指導を行うとともにスポーツ少年団の理念に基づき、地域の清掃活動などに団員を積極的に参加させ、地域に根差したスポーツ少年団の育成を行うなど、青少年の健全育成に尽力している。

神奈川県スポーツ少年団では、総務広報部会担当の副本部長として、スポーツ少年団の広報活動に力を入れ、「指導者のための神奈川スポ少だより」を発刊し、スポーツ少年団の様々な活動を広く指導者に提供している。

平林 弘光（ひらばやし ひろみつ）氏 73歳

（山梨県 ジュニアスポーツ指導員（サッカー））

同氏は、長年にわたり、サッカー指導者として競技の普及に尽力し、地域スポーツの振興に大きく貢献した。特に、幼少期のスポーツ環境の整備に精力的に携わり、スポーツ少年団を自ら立ち上げ、地域スポーツの普及に寄与した。代表指導者としてサッカーを通じて、スポーツをする喜び、自主性、協調性を養う指導を行い、青少年の健全育成に尽力した。

各種教室・イベントの企画について指導・助言を行うとともに、登山やキャンプ、オリ

エンターリングやスキー教室などの指導者として、地域コミュニティづくりに活躍している。スポーツ少年団の拡充・発展を図り、総合型地域スポーツクラブの設立に尽力し、生涯スポーツ社会の実現に貢献した功績は多大である。

田北 律弥（たきた りつや）氏 74歳

（山口県 スポーツ少年団認定員（剣道））

同氏は、昭和48年に下関市剣道連盟評議員に就任以来、平成18年に会長に就任するまで数々の役職を歴任。また、平成10年に山口県剣道連盟理事に、平成18年には副会長に就任、山口県、下関市の剣道の発展と後進の指導に尽力している。

下関市武道館を指導拠点に週4日、現在も指導者として第一線で少年剣道の指導にあたり、青少年の健全育成に貢献している。

国際スポーツ交流においても長年にわたり韓国釜山広域市と関釜親善剣道大会を開催、剣道を通じた国際交流と剣道の普及・発展に多大な功績を挙げている。

また、下関市体育協会副理事長・総務委員長として将来を見据えた組織づくりに努めるなど下関市のスポーツ振興の発展に努力している。

さらには、昭和55年の体育振興会発足と同時に地元小学校体育振興会の常任理事・事務局長として現在もなお、地域スポーツ・生涯スポーツの普及・発展・振興に尽力している。

桑原 章三郎（くわはら しょうざぶろう）氏 85歳

（熊本県 指導員（水泳））

同氏は、長きにわたり、地域の水泳競技の指導に携わり、青少年の健全育成に熱心に取り組むとともに、同競技の普及と底辺の拡大及び技術の向上に尽力している。

現在では、荒尾市において選手・指導者を牽引するリーダーとして、多くの優秀な人材や指導者を育成し、同県のスポーツ振興に欠かせない存在である。

また、荒尾市体育協会が長年にわたり夏休み等を利用して主催している初心者水泳教室においても、開講当初より講師として指導にあたり、地域スポーツの充実発展やジュニアスポーツの振興に手腕を発揮している。

その地道な努力は、教室生あるいは教室OBの高校生などから、県大会上位入賞者や九州・全国大会出場者も多く輩出するなど、地域スポーツの普及並びに生涯スポーツの活性化に多大な貢献をしている。

※ 受賞者の方々の年齢は2013年2月28日現在のものです。

以上

（お問合せ先）

| | | |
|----------------------|----|---------------------|
| 公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局 | 内橋 | TEL. 03 (3233) 7009 |
| ミズノ株式会社 広報宣伝部 東京広報課 | 木水 | TEL. 03 (3233) 7037 |